



地域とのかかわり
紹介します!

施設・事業所の 地域活動 レポート



No.6 社会福祉法人 京都福祉 サービス協会

社会福祉法人 京都福祉サービス協会
高齢者福祉施設本能 総務部長／介護部長

森 賢一



東京の特別養護老人ホームで介護スタッフとしての経験を経て、2005年京都福祉サービス協会高齢者福祉施設本能に入職。デイサービスで生活相談員、在宅介護課長、介護部長を経験し、総務部長兼介護部長として現在に至る。舞台芸術（異業種）からの転職。人が集まる組織づくりとクリエイティブな福祉の人材育成にも力を入れ、同法人内外で介護技術、地域福祉、ボランティア養成の講師を務めている。

歴史的に有名な「本能寺の変」があった場所の跡地に、高齢者福祉施設本能は存在します。歴史ドラマやクイズ、映画などの取材を受けることもしばしばあり、本能寺趾の石碑を訪れる観光客も少なくありません。しかし、私たち施設スタッフや地域の人にとっては、「本能寺の跡地」というより、「本能小学校の跡地」という感覚の方が強いです。かつて小学校が持っていたコミュニティの力をうまく活用し、地域福祉や施設運営に取り組んでいるのが当施設の特徴です。また、立命館大学の産業社会学部の乾ゼミが地域づくりに参加し、地域住民や施設スタッフと共に学びながら、地域力を高めているのも、大きな特徴です。

そして、地域の人と学生が施設の多目的スペースを活用し運営するカフェでは、地域の未就学児童とそのお母さん、利用者や家族、スタッフなどが交ざり合い、施設という垣根が低

いのも特徴です。

傾聴や日常生活支援、外出支援、音楽の演奏やダンス教室、習字の講師など、年間延べ2,000人程度の人が、ボランティアとして施設運営に協力してくれていることは大変ありがたく、誇りに思える特徴の一つです。

施設が立つ本能小学校の敷地跡には、高齢者福祉施設のほかに、堀川高校の武道場、第二グラウンド、自治会館が併設しており、油小路と小川通りを横切る辻子が通っており、普段から地域の人の通路としても活用されています。





地域展開の目的と主旨

当施設は、京都福祉サービス協会という社会福祉法人が運営しています。法人の施設部門は、京都市に特別養護老人ホームを6カ所、デイサービスセンターを8カ所、その他ケアハウス、ショートステイ、グループホーム、小規模多機能施設、認知症対応型通所介護など、多岐にわたる福祉事業を展開しています。また居宅部門は、訪問介護を中心に京都市全域をサポートしています。

法人の規模が大きいことから、より市民への影響力が高いと考え、適正に安定した運営を行うことは我々の責務であると考えています。そして、公共の福祉の増進のため、「くらしに笑顔と安心を！」という法人理念の下、地域の持つ特性を生かし工夫しながら、町づくり（地域福祉）を推進していくことも、私たちの責務です。

地域との協働活動の経緯とソーシャルワーカーの役割

当施設は平成17年9月に開所し、平成29年の9月で12年目を迎えます。地域の課題は、古くから住む住民と新しく越してきた住民との顔の見える関係づくりであり、施設が開所した当時、すでに「まちづくり委員会」が自治連合会に組織されていました。そして、私たち高齢者福祉施設の目的は、利用者の尊厳を守ることと笑顔のある地域生活の継続であり、そのためには地域とのよりよい関係が不可欠だと考えていました。

今思うと、初めから施設と地域のニーズは合致していたと思います。しかし最初から、さまざまな取り組みを行っていたわけではなく、地域の夏祭りや区民体育祭、餅つき大会に高齢者と一緒に参加

施設概要



住所：京都府京都市中京区蛸薬師通油小路東入
元本能寺南町346番地

ホームページ：http://honnou.jp.org

設立：法人設立；平成5年7月22日

施設竣工；平成17年9月2日

定員：特別養護老人ホーム90人

併設施設：短期入所生活介護10室、通所介護
定員35人、居宅介護支援事業所、地域包括支
援センター

平均要介護度：特別養護老人ホーム4.18、短期
入所生活介護3.16、通所介護2.59

立地：当施設は、京都市の中心部に存在し、7
月には祇園祭の巡幸が近くで行われます。本
能学学区は、およそ東西420m、南北650mの
区域に23町があり、自治連合会は、地区の
社会福祉協議会や文化協議会、成年会など
22の各種団体で構成されています。「かまき
り」のからくりで有名な蟠螂山という山町も

あり、この時期、地域の人は祭りの手伝い
などで大忙しです。施設には毎年6月頃、
南観音山（隣の学区の山鉾^{やまぼこ}の囃子^{はやし}の方^{かた}の皆
さんが、一足先にお囃子を奏でに来てくれ
ます。また、近隣には有名なお寺や美術館
などの公共施設もたくさんあり、外出先や
観光資源に恵まれた地域です。

かつて本能学区は、「白生地を持って、本
能を回ると着物ができ上がる」と言われて
いた染色産業の職人の町です。しかし、染
色産業の衰退により、大きな工房はマン
ションへと姿を変えました。白生地と一緒
に回っていた地域の情報も途切れ、町には
知らない顔の住民が多く見られるようにな
ってきました。本能学区の住民は、何代
も住んでいる人が多く、また染色産業を営
む運命共同体でもあり、地域愛、学区民の
絆はとても強いものを感じます。

新しく越してきた住民と古くから住む住

民とが協力し、再び顔の見える関係をつく
ることを地域の目標とし、施設や高校など
の場を活用しながら、カフェやさまざまな
イベントを行い、絆を強めています。

本能学区の高齢化率は18.6%で京都市の
26.7%に対して低めですが、高齢者の数は
この10年で180人ほど増えています。若い
世代がマンションに越してきたことがこの数
字からも分かります。また、本能学区のマン
ションの数は、平成10年から平成28年まで
の間に、約30棟から70棟に増えています。

基本理念

法人理念：くらしに笑顔と安心を！

施設理念：わたしたちは、一人ひとりの思い
のつまったくらしを大切にします

わたしたちは、関係するすべての方の笑顔
をめざします

わたしたちは、高齢者福祉の模範となる支
援を追求します

していた程度でした。徐々に地域の人との距離が近づいたのは、施設スタッフとして、「まちづくり委員会」へ参加したことや、町内の体育委員として主体的に地域行事にかかわったことがきっかけでした。実際に現在行っているイベントや取り組みは、その活動の打ち上げの席で出てきたことや、会議の後の何げない話が現実となっているケースがたくさんあります。

例えば、施設で行っている高齢者との芸術活動（アートコミュニケーション）は、8年ほど前に、まちづくり委員会主催の「ざっくばらんの会」という、文字どおりざっくばらんにさまざまな話をする懇親会で、文化博物館の主任学芸員（当時）と出会ったことがきっかけでした。

また、施設内で水曜日に開催している、コミュニティカフェ（IDOBATAカフェ）も、地域の夏祭りの足洗いで、本能学区社会福祉協議会（以下、社協）の会長と語り合ったのが始まりですし、金曜日に学生が運営するカフェ（えんがわカフェ）に至っては、まちづくり委員会の解散式典（解散したのは、当初の目的である新しい住民と古くから住む住民の顔の見える関係づくりの足懸かりが、ひとまずできたと評価したから）で、私と学区社協の会長と、立命館大学産業社会学部の乾教授とで話が盛り上がったことがそもそものきっかけでした。

当時私は、デイサービスとショートステイの在宅部を統括する立場にあり、相談員としても地域に出ていました。その頃の私は、地域の高齢者の笑顔が増えることにより、地域の人たちの笑顔も増えるだろうと考えていましたが、その後、さまざまな取り組みを通じて、その考えは逆で、地域が笑顔に包まれていれば、高齢者も笑顔になるのだと考えるようになりました。そして今は、どちらかの笑顔ではなく、双方の笑顔が連鎖し高め合うのだと思っています。

笑顔は連鎖し、楽しい所に人はやってきます。そして、そこでの役割ができれば、その人がまた別の仲間を呼んで来てくれます。

世代間交流を目的にした活動

施設で一緒に働く仲間も同じように、個々やチームでさまざまなレクリエーションやイベントを計画しています。認知症ケアでは、昔の話や音楽を聞きながら、当時の様子を語ってもらっていますが、ここにも地域の人が必要で。その土地や時代、空間を共有した人たちと、世代も地域も全く違うスタッフが交ざり合うことで、より深みが増します。また、認知症の人も、私たちと同じ現代を生きていることに変わりなく、今の文化にも馴染んでもらおうと、「スターボックスに行こう！」計画も行いました（この取り組みを最初に行ったのは8年ほど前です）。最初は施設にスターボックスのスタッフに来てもらい、コーヒーの頼み方や料金の支払い方を練習し、トッピング、コンディメントバー（砂糖やミルク、さまざまなパウダーが置いてあるスペース）などについてもレクチャーしてもらいました。それでも、認知症の有無にかかわらず、高齢者にとってスターボックスでの注文はハードルが高いのです。そこで、好みの味の注文カードをつくってもらったり、顔なじみの関係になった



方がサポートしやすいということで、一緒にクリスマス会などのイベントを行ったり、またスターバックスのスタッフに対して認知症サポーター養成講座を開いたりしました。

そのほかにも、染め物の町、着物の町の力を生かし、毎年、利用者と地域の人、学生、施設スタッフが着物を着て、二条城のライトアップにお花見に行く行事を行っています。着付けは、地域の人や利用者をお願いします。町の人々のアイデアで、車いすの利用者でも着やすいよう、セパレートに仕立て直した着物もたくさんあります。そして着物は、町の皆さんに寄付してもらったものばかりです。今はもう、あまり話せなくなった利用者が、着物にずっと手を通してニッコリしたり、地域の人々がニッコリしたりする姿を見ると、私たちもうれしさを頬が緩みます。



さまざまな地域展開活動

施設が拠点となって運営されている行事はたくさんあります。ゴールデンウィークには、意外に家で留守番している高齢者が多いという、地域包括支援センター長の意見を受けて、春の園遊会（大人のためのゴールデンウィーク）を開催しています。これは、芝生や辻子、施設、自治会館を利用し、お茶席やフラワーアレンジメント、エコバッグ作りなど、毎年、児童民生委員や社協、施設スタッフがアイデアを出し合って運営しています。

芝生を利用した「Myこいのぼり作り」は、地域住民兼法人スタッフの発案で、「芝生をこいのぼりでいっぱいになりたい」という思いからスタートし、文化協議会を中心に、成年会、消防分団、学生、スタッフ、その他もろもろたくさんの人の協力を得ながら実施しています（2017年で4年目になります）。こいのぼり作りは3月に行い、ペイントしたこいのぼりを乾燥させ、縫製して完成させ、4月末に掲揚式を行います。そこには、こいのぼりを作ってくれた子どもや親たちが、それぞれお弁当を持参し、施設前の芝生でランチピクニックを楽しみます。200匹程が、大空を泳いでいます。



また、さまざまな人とのつながりから、本能学区の「区民体育祭」には80歳以上の人しか参加できない競技や、「納涼お化け屋敷+花火大会」があります。そして、施設の高齢者や地域の人、スタッフが一緒にカントリーミュージック（地域の人々がバンドのメンバー）を楽しみながら、お酒を飲んだり、ケーキを食べたりする「クリスマスナイト」や、地域のものしりの人からさまざまな文化を学ぶ「ものしり講座」「本能寄席」などを開催しています。

これらの活動の原動力となっているのは、やはり地域の地力やネットワークであることは間違いありませんが、そういった思いや話がいつでもできる、定例の「IDOBATAカフェ」や「えんがわカフェ」「芝生開放」「いきいき体操」「いきいきサロン」「地域連携会議」「地域との勉強会」という場の役割が大きいと思います。



クリスマスナイト



お化け屋敷の外



本能寄席 (立命館大学 落研)



花火大会



ものしり講座 (五山送り火)

年に1度の活動「GAM」

ここでは、活動の集合体と言えるイベント「GAM (ギャム)」(Grand Art Museum) について紹介します。

この活動は、11月の約10日間を本能芸術祭とし、施設や地域のアート活動の展示会や、成年会主催のフリーマーケット、学生と施設スタッフのコラボイベントなどを通して、多世代や多様な人たちが施設エリアで芸術や文化を楽しみながら緩やかに交ざり合い、顔見知りになっていくことを目的としています。

2016年のテーマは「まざる」とし、ボランティアや地域の人に声かけを行いながら、「カフェ」を中心にコンテンツを決めていきました。日程とテーマやコンセプトを伝えると、皆さんからもどんどんアイデアが出てきて、イベント自体が自然に育っていきます。





GAM2014の展示



本能フリーマーケット

●「GAM」の活動内容

2016年に開催した「GAM」の内容を紹介します。期間中は、施設内のパブリック・セミパブリックスペースに、高齢者や地域の人々のアート作品を展示し、時間を決めて一般にも公開しています。

①11月3日(木) オープニングイベント「フリツケエクササイズ」

施設の高齢者に取り入れている、振付エクササイズをボランティアの講師の指導の下、地域の5世代で踊るというイベントです。当日は、3歳から103歳までの人が参加し一緒に踊りました。そのエリアでしか聞こえない、特殊なスピーカーを使用し、世代ごとに曲を分けて踊りました。



Grand art museum in Honnoh (オープニングイベント) 今年も開催!

**5世代交流
本能芝生広場で「丸竹夷」を踊ろう**

11月3日(木・祝日) 10:00~11:00
(世代別に、その場でフリツケをお教えします)

『0歳~102歳!! 親子、小学生、学生、中高年、シニア世代』
の5世代で丸竹夷の通り名唄に合わせ、地域の皆さんで楽しく踊りませんか。

主催: 高齢者福祉施設「本能」 協力: シアールハピネス
振付(フリツケ)エクササイズ実行委員会(京都市教育委員会後援)

②11月4日(金)

JAZZカフェ(通常はえんがわカフェ)

施設に何度も来てもらっているDreamsというJAZZバンドに依頼し、当日はえんがわカフェのメンバーがお酒やおつまみを提供し、音楽を楽しみました。



③11月5日(土) まぎーるカフェ(施設内イベント)

IDOBATAカフェが運営する、施設利用の利用者や、家族同士で、顔を合わせることができるカフェです。

④11月7日(月) eカフェ

法人の別施設のカフェで、ほかの施設の利用者や当施設の利用者、地域の人々が、交ざり合ってケーキをいただきました。

⑤11月8日(火) 遊ビリーカフェ

プロレスラーのビリーケンキッド氏に来てもらい、トークショーや空手チョップを練習しながら、施設の利用者に“機能訓練”を行いました。自立支援委員会の取り組みである、「遊びりテーション」とのコラボイベントです。

⑥11月8日(火) GAらら(Offイベント)

当施設には、スタッフ同士で結成している“あらら”というバンドがあります。普段は、当施設やほかの施設で、ボランティア活動を行っています。このイベントは、施設スタッフだけがお客さんとして参加できる、スタッフによるスタッフのためのイベントです。私も飛び入りで一曲歌わせてもらいました。

⑦11月9日(水) ※IDOBATAカフェ(通常のカフェです)

地域の人が、施設の多目的スペースを活用して運営しているカフェです。この日は特別に多目的室を利用者や地域の人々の作品で飾り、ギャラリー風にしてオープンしました。

⑧11月11日(金) アートコミュニケーション(通常はえんがわカフェ)

隔月で行っている施設利用者向けのアート活動を、この日はオープン参加とし、カフェに来ているお客さんたちと、利用者が一緒に作品を作りました。



⑨11月11日(金) もの知りカフェ「まざる考古学」

一緒にアート活動をしている京都外国語大学の南教授に、考古学の話をして、今回のテーマである「まざる」にからめて話してもらいました。カフェの運営は、えんがわカフェが行いました。

⑩11月12日(土) メイクボランティア(施設内イベント)

隔月で施設に来てもらっているメイクボランティアに来てもらい、利用者にお化粧をしてもらいました。

⑪11月12日(土), 13日(日) 本能クラブ生け花展(ギャラリー使用)

本能学区の「生け花クラブ」による、作品の展示会です。こちらは、民生委員にカフェの運営を依頼し、お客さんにお茶を提供してもらいました。

⑫11月13日(日) 本能ミッションスタンプラリー(ひだまりカフェ)

地域の子どもたちや、そのお父さんお母さんが、施設の中でさまざまなミッションに挑戦し、クリアするとスタンプがもらえ、クイズに全問正解でビンゴカードとお土産、不正解があってもビンゴカードがもらえるイベントです。

施設利用者との卓球バレーの試合では、勝てばスタンプをもらえますが、ほとんどの参加者が利用者にやっつけられてしまいました。また、施設4F湯上りコーナーでは、子どもたちに家紋と武将の名前を覚えてもらい、それをクイズとして出題しました。

ひだまりカフェは、地域のコミュニティカフェを施設屋上のテラスで実施する時のネーミングで、地域の人と学生との共同運営です。



ミッションの説明



施設利用者との卓球バレー



クイズの出題



ひだまりカフェ

●GAMの活動を始めるにあたって

私は、日々の会話の中で利用者のこと、地域のこと、スタッフのこと、また困っていること、おもしろそうなことなど、さまざまな話を聞きます。日常のちょっとしたことから、命にかかわるような重大なことまで幅広いです。もちろん、私がすべて対応することはできませんが、誰につながればよいだろうか、誰が助けてくれるかなど、手探りながらも探すことはできると思います。私がキャッチした情報を必要に応じてネットワークに乗せると、誰かがキャッチしてくれます。それをつなぎ合わせ、ネットワークを広げていくのが、ソーシャルワーカーの役割ではないでしょうか。

GAMの活動では、活動できる場をつくり、興味がありそうな人や力になってくれそうな人に声を

かけ、そして私自身の熱意や思いを伝えると、それぞれがアイデアを出し合い、一つの形に育っていききました。初めから、そこまで意図していたわけではありませんが、その結果、さまざまなものがくっついたり、交ざったりして、現在の活動の形となっています。

地域活動の効果

当施設ではGAMだけではなく、さまざまな活動を行っています。ここ3年くらいは、年度初めに、学区社協、文化協議会、民生委員、施設、学生が会議を持ち、年間計画を立てています。もちろん、その中には地域の現状調査や、福祉についての勉強会の日程なども含まれます。また、町の人からは、「今年の二条城はいつ？ 着付けあるし予定開けとくわ！」「今年の園遊会は、MYバッグ作りにして、夜でも車のライトが反射するスタンプを押してもらおうと考えているけど、どう思う？」「施設でボランティアすると、お年寄りが喜んでくれて癖になるわぁ！」という声が聞かれ、「この花はね、〇〇っていうのよ」と自宅で育てている花を施設のカフェに毎週持って来てくれるようになった人もいます。そして、スタッフと地域の人で話が盛り上がり、施設と一緒にパン作り教室を開催したこともあります。

もしかすると、ただイベントをたくさんしている施設に見えるかもしれませんが、学区社協の会長の「施設と一緒に町づくりをしてくれるから、町も一緒に施設づくりをする」という言葉を聞いて、施設が町の一部になっているということを実感しました。施設が町をつくり、町が施設をつくるという考え方ができてきたのが、さまざまな取り組みの最大の効果だと思います。

現状の課題

私は法人の新人育成研修で、地域福祉の講師を担当しています。その中で最も熱く伝えていることは、「地域福祉の推進は、目の前の高齢者の尊厳を守り、笑顔のある生活をしっかり支援すること」です。現在、地域の人と一緒に地域福祉の推進に取り組んでいますが、私たちはそのほとんどの人のお父さんやお母さんをケアしてきました。つまり、地域的人是利用者の息子や娘です。一緒に町づくりをする前に、一緒にお父さん、お母さんの幸せを考えたことが重要であり、今につながったのだと思います。

地域には障がいのある人や、生活困窮者、さまざまな虐待やいじめ、ハラスメントといった問題があります。地域と行政と施設がしっかり話し合い、そのすべての人が、安心して普通に暮らすことができる仕組みをつくる必要性を感じています。一つの施設で、支援が必要な児童から高齢者までが役割を持ちながら、一緒に生活できる施設があれば、今より確実に在宅復帰や地域復帰ができるようになると思います。そのような大きなアクションも、今後私たち社会福祉法人に求められる地域支援の形ではないかと考えています。